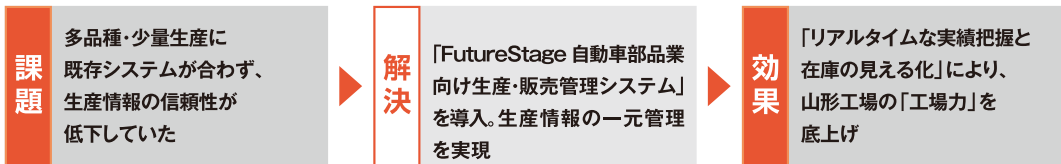


■ (株)日立システムズ

# いちばん大事なのは「価格」ではなく「やりたいことができること」です

## 株式会社三協製作所 山形工場 様の「FutureStage 自動車部品業向け生産・販売管理システム」導入事例



株式会社三協製作所(以下、三協製作所)は、アルミニウム合金を金型により常温成形する「冷間鍛造技術」の確立で知られ、主に自動車業界や二輪業界に向けて高品質な部品を提供しています。

同社は2011年6月、主力製造拠点の山形工場に、「日立 製造・流通業向け基幹業務ソリューション FutureStage」を導入。生産情報の一元管理による“工場力”の底上げを実現しました。

### システムに取り込めない情報が多数発生していた

FutureStage導入前の課題について、取締役 統括本部長の増田 孝史氏は「長年、当社は“少品種・大量生産”で製品を提供してきましたが、お客さまである自動車業界のジャストインタイムへの対応が求められたことから、“多品種・少量生産”へと変化していきました。しかし、90年代後半に導入した大手の生産管理パッケージでは、複雑化する多品種・少量

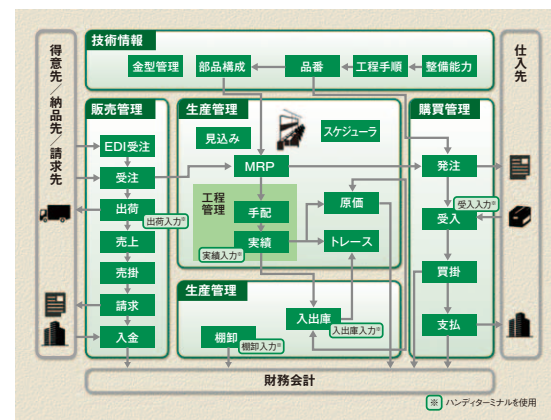


冷間鍛造によって生み出されたアルミニウム合金製の部品

生産に対応できなくなってきました。特に、当社が得意とする冷間鍛造は、工程数が製品ごとに異なり、システムに取り込めない情報が多数発生したのです」と説明します。さらに、生産管理部 生産管理課 工程係 係長の今野 善則氏は「社員が独自に在庫表や注文書、出荷計画などを管理する“補完エクセルファイル”を作って対応しました。しかし、その手間と情報の乱立が現場に混乱をきたし始めたため、システム更新のタイミングで、新たなパッケージを導入しようと決断したのです」と続けます。

20種類にもおよぶ生産管理パッケージを詳細に検討した結果、日立システムズが提案した「FutureStage 自動車部品業向け生産・販売管理システム」を選定しました。

「決め手になったのは、冷間鍛造に対応する詳細なロット管理が実現できることでした。カスタマイズ費用が適正であるうえに、発注決定前の段階から山形工場のスタッフに詳しいヒアリングを行い、緻密な要件定義とフィット&ギャップ分析を行って



生産管理の強化・効率化を実現した FutureStage

Cold Forging  
株式会社 三協製作所

株式会社三協製作所

本社 東京都江戸川区西一之江 4-6-16  
創業 1960年3月1日  
従業員数 160名(2014年4月1日現在)  
事業概要 アルミニウム合金精密冷間鍛造品、アルミニウム温間・熱間鍛造品、アルミニウム・インパクトケース、アルミニウム各種プレス加工品、アルミニウム機械加工品



れました。日立グループという企業の信頼性、そしてアフターフォローもしていただける永続性も重要なポイントでした」と増田氏は語ります。

### カスタマイズ対応で実績や在庫をリアルタイムに把握

FutureStage 自動車部品業向け生産・販売管理システムは、取引先ごとに異なるEDI対応、内示情報の管理と生産計画への反映、量産品/試作品/保守部品別の単価設定といった、業界に特有の機能をサポートするパッケージです。受注から出荷までの基幹業務機能がオールインワンで、お客さま業務に合わせたカスタマイズも自在です。

FutureStageの導入後、山形工場の現場はどのように変化したのでしょうか。総務部 総務課 課長の遠藤 友和氏は、その効果を「すべての生産情報が見える化され、リアルタイムな在庫照会やロット管理といったさまざまな数字が信用できるようになりました。生産計画でも高精度なシミュレーション機能で、人員配置などについて事前に段取りができるようになったのが助かります」と語ります。

また、製造部 製造三課 プレス一係係長の片倉 隆氏は、「生産実績がバーコード入力できるので、システム登録の手間が半分程度になりました。また、反映された実績は、リアルタイムに把握できるため、どうすればもっと効率よく生産できるのか、従来とは違った別なやり方はできないのかといった、現場スタッフ自身が主体的に考え、工夫する取り組みが生まれてきました」と評価します。

品質保証部 品質保証二課 リーダーの澤村 広樹氏も、「製造品に問題が発生した場合、ロットトレ



株式会社三協製作所 品質保証部 品質保証二課 リーダー 澤村 広樹氏	株式会社三協製作所 製造部 製造三課 プレス一係係長 片倉 隆氏	株式会社三協製作所 総務部 統括本部長 増田 孝史氏	株式会社三協製作所 総務部 総務課 課長 遠藤 友和氏	株式会社三協製作所 生産管理部 生産管理課 工程係 係長 今野 善則氏
--	--	-------------------------------------	---	---

スで完成在庫や工程在庫の中から対象部品や製品を照会します。これをいかにすばやくできるかが重要なポイントになります。新システムではこの精度とスピードが格段に向上し、お客さまからの信頼も高まっています」と笑顔を見せます。

### 今後は全社レベルでの個別原価管理を追求

FutureStageの導入で従来の課題は、ほぼすべて解決できたと喜ぶ山形工場の皆さま。第1フェーズの目標だった「リアルタイムな在庫管理と実績把握」を実現できた今、増田氏は「第2フェーズでは、より緻密な生産計画の立案や金型の実績収集を、第3フェーズでは全社レベルでの個別原価管理を追求したいと思います。そのためには日立システムズの継続的なコンサルティングと、機能強化に向けたきめ細かなサポートが何よりも必要となります」と今後の構想を語ります。

FutureStageによって山形工場の工場力を強化することに成功した三協製作所。同社のさらなる業務改善と経営力アップを支援するため、これからも日立システムズは、パッケージ機能のさらなる拡充と付加価値の高いソリューション提供を行っていきます。

<p>お問い合わせ先</p>	<p>株式会社日立システムズ フリーダイヤル0120-346-401 受付時間 9:00~ 17:00(土・日・祝日は除く)</p>	<p>日立システムズ FutureStageサイト <a href="http://www.hitachi-systems.com/ind/fs/">http://www.hitachi-systems.com/ind/fs/</a></p>
----------------	--	---